令和８年度　第１回総合教育会議　議事録

日　　時	令和 8 年 10 月 13 日（火）　13 時 30 分～14 時 30 分
場　　所	小牧市役所本庁舎　6 階　601 会議室
出 席 者	**【委員】** 天野　正基　　小牧市長 中川　宣芳　　小牧市教育委員会　教育長 加藤　由美　　小牧市教育委員会　委員 野中　亮秀　　小牧市教育委員会　委員 古田　重紀　　小牧市教育委員会　委員 纐纈　由美　　小牧市教育委員会　委員 **【事務局】** **（市長公室）** 駒瀬　勝利　　市長公室長 舟橋　知生　　市長公室次長 松浦　一将　　秘書政策課長 上原　みよ子　　秘書政策課　市政戦略係長 土田　賢太郎　　秘書政策課　市政戦略係 今崎　健人　　秘書政策課　市政戦略係 **（教育委員会事務局）** 矢本　博士　　教育部長 長谷川　隆司　　教育部次長 丸藤　卓也　　教育総務課長 若林　剛　　教育総務課　庶務係長 河村　俊之　　教育総務課　庶務係 勝山　貴之　　学校給食課長 櫻井　晃生　　学校教育課長 大久保　和則　　学校教育課　管理指導主事兼主幹 松浦　由美　　学校教育課　指導主事兼主幹 瀬尾　宗利　　学校教育課　指導主事兼主幹 和泉　秀典　　学校教育課　指導主事兼副主幹 山口　祐樹　　学校教育課　指導主事兼副主幹 宮腰　満枝　　学校教育課　指導主事兼副主幹 山下　洋子　　学校教育課　学校教育係長 添田　元治　　学校教育課　ICT 教育推進係長 大野　将嗣　　小牧山課長 **（健康生きがい支え合い推進部）** 高木　晶子　　健康生きがい支え合い推進部次長 藤田　伸也　　文化・スポーツ課長 **（こども未来部）** 野田　弘　　こども未来部次長 臼井　勇気　　幼児教育・保育課長
傍 聴 者	１名
配付資料	次第

	資料１　小牧市まちづくり推進計画第３次基本計画（案）（抜粋） 資料２　小牧市教育大綱及び小牧市教育振興基本計画の改定に係る基本方針 資料３　教育大綱と教育振興基本計画 資料４　第２次小牧市教育大綱（案） 資料５　計画体系図（新旧比較） 資料６　第２次小牧市教育振興基本計画（案）

主な内容

1.市長あいさつ

2.教育長あいさつ

3.議題

(1) 小牧市まちづくり推進計画第３次基本計画（案）について

(2) 小牧市教育大綱（案）について

事務局より、資料 1～6 に基づき、一括で説明。

○質疑・意見の発言内容

教育大綱

【中川教育長】

・教育大綱の基本理念及び目指す人間像については、現行の内容が現在も十分に適合しており、大きな変更は不要であることから、原案で進めてほしい。

【野中教育委員】

・教教育大綱の７つの基本目標についても、小牧市が目指す人物像の育成という観点から妥当である。

教育振興基本計画

【加藤教育委員】

・施策１に関して、「学び合う学び」は小牧市が長年取り組んできた重要な財産であり、引き続き推進すべきである。
・AI 等のデジタル技術が発展する社会においては、子どもたちが課題を見つけ、協力して解決する力を育むことが重要である。
・地域や企業と連携した探究的な学びをさらに充実させるべきである。
・次期学習指導要領の改訂に向けた検討会において、基本的な考え方として『「好き」を育み「得意」を伸ばす』教育の充実について示されている。小牧市で実施している『こまき「夢☆チャレンジ」科』の探究学習の推進に期待する。

【野中教育委員】

・施策３に関して、学校再編は施設統合が目的ではなく、将来にわたり子どもたちへより良い教育環境を提供するために進めるべきである。
・学校は地域の重要な拠点でもあるため、地域住民や保護者との丁寧な対話を重ねながら進めてほしい。
・将来を見据え、子どもたちを第一に考えた教育環境整備を進めるべきである。

【加藤教育委員】
・施策６に関して、総合教育支援センターは小牧市の教育支援の中核となる重要な施設である。
・不登校支援や教職員研修など、多様な教育活動の拠点として整備を進めてほしい。

【天野市長】
・総合教育支援センターの重要性は認識しているが、設置場所等については引き続き検討する。

【加藤教育委員】
・幼児教育・保育から小学校教育への円滑な接続は重要な課題であり、幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校が連携して取り組む必要がある。
・幼児教育は義務教育の準備のために行うものではなく、子どもの主体性を尊重し、遊びを通じた学びを大切にするものである。
・幼児期に培われた力を土台として小学校教育につなげていく「学びの接続」の視点が重要であり、幼児期の学びや育ちを小学校側と共有しながら教育を進める必要がある。
・施策における「義務教育へのつながりを意識した幼児教育・保育を行います」との表現については、幼児教育の意義が適切に伝わるよう見直しを検討してほしい。

【丸藤教育総務課長】
・計画策定にあたり、意見を参考に検討させていただく。

【中川教育長】
・施策１では、「学び合う学びを基本とした授業の推進」を掲げているが、今後は市が目指す人間像の実現や、多様化する社会に対応できる力の育成がより重要になると考える。
・子どもたちが自ら課題を見つけ、主体的に探究していく力を育むことが重要であり、その考え方を関係者間で共有しながら、今年度から「こまき「夢☆チャレンジ」科」を全 25 校で本格実施していることから、その内容を施策１に加えてほしい。
・また、未来を担う子どもたちにより良い教育を提供するためには、新たな教育環境の整備が必要である。
・子どもたちが自ら考え、課題解決に向けて学びを深めていけるよう、教育環境の充実を教育振興基本計画に盛り込むことについて理解をお願いしたい。

【天野市長】
・承知した。その方向で進めさせていただく。

まちづくり推進計画

【中川教育長】
・不登校児童生徒への支援強化が喫緊の課題である。
・子どもたちの食を支える取組や、ICT を活用した教育 DX の推進も重要である。
・部活動の地域展開や小牧山の活用も今後の重要課題である。
・以上が教育現場でよく挙がる課題かと思われる。

【纐纈教育委員】
・不登校支援については、学校復帰のみを目的とするのではなく、一人ひとりに応じた学びや居

場所の確保が重要である。
・校内サポートルームやメタバース等を活用しながら支援を進めてほしい。
・保護者への相談支援や情報交換の充実も必要である。

【古田教育委員】
・ICT 環境は学校現場に定着しつつあるが、さらなるソフト・ハード両面の整備が必要である。
・教職員間の技能差を埋めるため、研修の充実を図るべきである。
・SNS や AI に関するリスクやモラル教育も併せて推進し、子どもたち自身に考えさせる仕組みが必要である。

【中川教育長】
・不登校支援は全国的な課題であり、本市においても様々な取組を進めている。今年 9 月からはメタバースを活用した支援を開始し、現在 7～8 人が登録して利用している。
・利用者の拡大など課題はあるものの、子どもたちのつながりづくりの場として継続していきたい。
・不登校児童生徒への支援だけでなく、その保護者への支援も重要であることから、昨年度より保護者の情報交換会を開催している。情報交換会では、各家庭の経験や対応方法を共有することで、保護者同士が学び合い、不安の軽減につながる場づくりを進めている。
・参加者アンケートでも好意的な意見が寄せられており、今後も継続して実施していきたい。
・一人一台端末の環境を有効活用するため、ICT 活用に関する教職員研修を引き続き進め、子どもたちの学びの充実につなげていきたい。

【野中委員】
・部活動の地域展開は大きな課題である。
・地域住民やスポーツ指導者が関わることで、地域コミュニティとの新たなつながりが生まれることを期待する。

【天野市長】
・部活動の地域移行については、先進自治体の取組を参考にしながら、どのような形が本市にとって適切であるかを十分に検討し、進めていきたい。

【纐纈教育委員】
・物価高騰の影響により家庭で十分な食事を用意することが難しい状況も見られる中、学校給食には子どもたちの栄養バランスを支える重要な役割がある。
・学校給食は栄養面だけでなく、食育や郷土愛の醸成にも大きな役割を果たしている。
・物価高騰や食物アレルギーへの対応など様々な課題があるが、安全・安心でおいしい給食の提供を継続してほしい。
・子どもたちが給食を楽しみに思える取組を進めることで、残食率の低下にもつながることを期待する。

【古田教育委員】
・小牧山は小牧市を象徴する重要な歴史資産であり、次世代へ継承していく必要がある。
・学校教育における活用を進め、子どもたちの郷土愛醸成につなげてほしい。
・市外からの来訪者にも魅力が伝わるよう施設整備や活用を進めるべきである。

【中川教育長】
・小牧山は保存と活用の両立が重要である。
・歴史的価値を守りながら、多くの人が訪れる魅力ある場所となるよう整備を進めたい。

総括
【天野市長】
・委員から教育環境の整備や文化振興をはじめ、多くの貴重な意見が示された。
・限られた財源の中で、子どもたちの教育環境の充実や文化振興に効果的・効率的に取り組むことが重要である。
・審議会でいただいた意見を踏まえ、まちづくり推進計画及び教育振興基本計画に反映していきたい。
・今後も引き続き協力をお願いしたい。

4. その他
・交通安全に関するお願い